

< 第 3 回総合計画審議会の報告 >

事務局

- ・基本構想構成（案）及びまちづくりの視点（都市経営戦略）を中心に説明

< 施策の大綱（素案たたき台）都市整備関係 >

部会員

- ・中タイトル 1 「いきいきと暮らせる街づくりの推進」の内容 2 にある、機能分担とはどのようなイメージなのか

事務局

- ・各地域にある日常生活に必要な商業、医療・福祉、教育・文化などの機能を、地域を公共交通ネットワークで結ぶことで、自分の地域にない機能は中心市街地や郊外に行かなくても隣の地域で用を足せるというイメージ

部会員

- ・生活圏とは、今ある生活圏を指すのか、これから新しい生活圏を作っていくのか。

事務局

- ・要素の中にも既存インフラ投資の有効活用とあるが、今ある生活圏を最大限にいかしていくスタンスであり、新しい機能を地域ごとに整備するものではない。
- ・ひとつの地域だけではできないものを、広域的な一つ上の生活圏でカバーすることで機能分担と表現している。役割分担とした意味合いでもあるが、計画の中でももう少し時間を掛けて議論していく必要がある。生活圏については都市計画マスタープラン策定の中で、1～2 km の範囲で考えている。そのベースとして、学校などを起点とした生活圏を想定しているが、これから総合計画と調整していく必要がある。

部会員

- ・身近な生活圏とすればイメージしやすい。2 つのことを一つの文章にまとめているから解り難くなっている。まず身近な生活圏を中心とした集約的な街づくりの推進があり、尚且つお互いの生活圏が都市の機能を相互に連携して分担し、それを公共交通で結ぶと表現にすれば解りやすい。

部会員

- ・インフラ投資の広域的活用と入れれば解りやすくないか。

部会員

- ・広域と言ってしまうと、広すぎるのでは。

事務局

- ・既存のインフラ投資の有効活用については、計画に盛り込みたい。
- ・この部分は内部でも解りづらいと指摘されており、次回にはもう少し解り易い内容に修正したい。

部会員

- ・集約的とはどういうことか

事務局

- ・各地域にある既存インフラを有効活用し機能分担することで、漠然とした市街地の拡大を抑制し、まとまりのある地域づくりを築いていくという意味合い。

部会員

- ・そういう事であれば、もっと簡単な言葉を使えばよいのでは。

事務局

- ・この部分は第六章を支える全ての要素でもあり、2つに分けることもアイデアのひとつ。都市整備分野は土地利用構想と連動して全ての章に影響してくる。生活圈、機能分担、集約的という重い言葉を含んでいるので、ギリギリまで議論していきたい。

部会員

- ・ユニバーサルデザインの注釈に性別を加えるべき。国際化の分野もあるので、国籍、言語も加えたほうがよいのでは。

事務局

- ・ユニバーサルデザインの目的は不自由な人とそうでない人との差を無くすこと。国籍など拡大的解釈の言葉を加える必要はないのでは。

部会員

- ・誰もが使いやすい、が正しい表現であり、前段に障害の有無や年齢のことを述べているので指摘した。前段は要らないのでは。

部会員

- ・内容1の表現が、あまり印象的な文章になっていない。中心市街地の再生は、ワークショップでも大きく議論された分野であり、もっとインパクトがある文章にしてほしい。

事務局

- ・中心市街地については、産業部会でも主に商業的な事について議論している。
- ・他の部会でも議論されている内容だが、都市整備部会として、修飾語を使いインパクトがある表現にしてもよい。

部会員

- ・中タイトル2「まちを結ぶ快適なネットワークの形成」にある、自転車の利用促進はどのような施策を実施していくのか。

事務局

- ・具体的な施策は計画での話だが、駐輪場・自転車道の整備、段差の解消など自転車を利用しやすい環境整備をしていきたい。
- ・具体的な施策は、これから総合計画とその他の計画や各課の考えを連携して検討していくが、総合計画のまちづくりの方向性では、この程度の表現になることを理解してほしい。

部会員

- ・内容1（公共交通・自転車の利用）での促進と、内容2（道路網の整備）の推進するとの使い分けの違いは。促進とすると、財源に余裕があればやります、というイメージになる。

事務局

- ・駐輪場の整備等は市単独ではなく、JRやバス事業者とも協議して進めていく事業であること、また環境整備した後、公共交通機関や自転車を利用するのは市民であることから促進としている。

部会員

- ・電車やバスを利用してほしいという市の姿勢が弱く感じる。

事務局

- ・用語の定義について、内部で統一したものだが、推進と促進でどちらが弱いというものではない。この場合は他の事業者の協力を得ながら、市民に対して利用を促し進めていくという事で理解してほしい。

部会員

- ・自転車利用者の意見を聞く事業者はどこになるのか。

事務局

- ・利用団体ではないか
- ・市では、今まで廃棄していた放置自転車をみどりの自転車としてリサイクルしており、利用促進に繋がると思う。

部会員

- ・内容2で道路交通の円滑化は体系的な道路整備と生活道路の両方にかかっているのか。

事務局

- ・どちらの道路整備にもかかってくる。

部会員

- ・公共交通と道路整備は相反したものであり、並列しているは納得できない。公共交通を衰退させたのは車社会における道路整備ではないか。

事務局

- ・これからのまちづくりに交通需要マネジメントの立ち上げを進めていく必要がある。もう少し専門的なところで議論をしていく必要がある。
- ・どちらも解消していく問題であり、今の段階では並列せざるを得ない。

部会員

- ・TDMの導入を検討するぐらいの内容は入れて欲しい。

事務局

- ・公共交通システムの構築にパークアンドライドシステム等のTDMの導入も含まれている。
- ・快適なネットワークの形成という枠組みの中で並列していると、理解してほしい。TDMの導入検討については基本計画に盛り込みたい。

部会員

- ・中タイトル3「地域から広がるふれあいと交流の推進」の地域間連携で、いかし合いと平仮名を使っているが、漢字では表記しないのか。

事務局

- ・各章、平仮名で統一している。

部会員

- ・全体を通して、長野らしさを表現していくことが重要であるが、全体的に教育に関する要素が抜けている。教育部会でも議論されてはいるが、地域間連携の交流分野の要素に教育を入れてほしい。

事務局

- ・観光、経済、文化の他に、福祉、教育、情報等の分野も含まれている。

部会員

- ・内容2で、いかし合い、補完するとあるが、並べる必要があるのか。いかし合い、認め合うではないか。補完するは要らないのでは。

事務局

- ・他地域の特性を補い、足りないものは補完することで地域間連携を図っていくという意味合い。

部会員

- ・補完するを外し、「広域的な地域間の連携と交流を深め、活力あるまちづくり」とすれば、わかり易い。

事務局

- ・検討したい。

< 素案たたき台 土地利用構想 >

部会員

- ・(2) 現況と課題の5行目の、「社会経済活動の拡大や都市化の必要性は従来よりゆるやかになる」とはどういう意味か。

事務局

- ・これから人口減少や少子・高齢化が進むことで、従来よりは宅地の需要や商業・工業の社会経済活動が縮小する傾向にあり、開発的な土地利用や都市化の必要性はゆるやかになると予測されることから表現した。

部会員

- ・ゆるやかになるとは、まだ増える可能性も含んでいるのか。

事務局

- ・はっきり下がるとしたのではなく、従来の昇り調子では無いが、先が落ちたようなイメージ。

部会員

- ・これは弱含みの表現では。

事務局

- ・伸びがゆるやかになるというより、需要が落ちていくとした少しマイナスのイメージ。

事務局（専門部会員）

- ・必要性がゆるやかになるとの表現は解り辛い。

部会員

- ・社会経済の発展は予想がつかないものであり、はっきり方向性を示すのは疑問。

事務局

- ・ある程度の方向性は示していく必要がある。表現方法は検討したい。

部会員

- ・今後の見通しの部分であり、あまり曖昧な表現でもいけない。

部会員

- ・技術革新や国際化の要因を考慮すると、今は伸び悩んでるが、長期的に考えると予想がつかない部分があるので、あまり断定的な表現にしないほうがよい。

事務局

- ・統計的に人口が減少すると想定した上での議論だが、今後、目指していく土地利用を考えた時、郊外的な土地利用について議論していく必要がある。無制限の拡大はあり得ないが、不整形な土地については整備をしていく必要がある。

部会員

- ・今までの量的な土地利用の拡大から質的な変化について謳うべき。

部会員

- ・基本理念の視点にも「長野らしさをいかしたまちづくりへの土地利用の推進」と長野らしさを明確に謳うべき。

事務局

- ・長野らしさを表現する場合、直接的ではなく、それを読み取れる表現でないと難しい。基本理念でも、歴史的風土の保全や周辺環境と調和した良好な景観の形成など、善光寺や松代を意識した表現を入れている。

部会員

- ・基本理念は土地利用の精神であり、説明しないと分からない言葉ではなく、ながのを明確に示すべき。

事務局

- ・検討する。

部会員

- ・注釈3の市街地の外延的拡大の抑制に「漠然とした」との表現があるが、わかり辛い。

事務局

- ・市街地のまわりに広がったというイメージを表現した言葉だが、修正したい。

部会員

- ・線引きの周辺など、～の市外地の拡大とはっきり表現できればよい。意味はわかるが難しい。

部会員

- ・集約的な街づくりや市街地の外延的拡大の抑制と謳っている中で、地域別土地利用の方向性で住宅地の供給や居住環境の整備とあるが、郊外に新しい住宅地を作るととれるので、表現を変えたほうがよい。

事務局

- ・集約的な街づくりとは、市内一律に宅地を作らないことではなく、市街化区域には可能な場所で需要があれば住宅地を供給し、中心市街地でも商業施設とすみわけをしながら居住環境を整備していく。一方、郊外では団地などの開発は抑制するとしてメリハリのある土地利用を意味したもので、市街地地域に取って代わって文言を入れた。

部会員

- ・国でも高齢者を利便性に優れた中心市街地に移り住んで貰うという政策を掲げているが、それが中心市街地の活性化に結びつくのか疑問がある。構想の中でも同じことを想定しているのであれば、個人的には間違いだと思う。

事務局

- ・中心市街地における居住環境の整備は、高齢者のみを対象にしたものではない。

部会員

- ・中心市街地のマンションには高齢者が多いが、生活していく上で利便性が高く、賑やかなので移り住んでいる。中心市街地の居住環境整備は駅前商店街の活性化にも繋がりと、観光面と両立できる施策であることから、高齢者がというような話ではない。

部会員

- ・駅前商店街にとって、周辺に住んでいる方は観光客と同様に大切なお客様であり、居住環境に整備は必要だと思う。

部会員

- ・都市は高密度で多様性でなければいけない、という項目を入れればよいのでは。

事務局

- ・人が集まったから活性化するものではなく、地域コミュニティをどうしていくかが重要。

部会員

- ・P18 市街地地域のA地域全般の5行目にある既存の公共施設に学校を入れてほしい。

事務局

- ・教育部会と調整しながら、検討していく。

< 素案たたき台 行政経営の方針 >

部会員

- ・中タイトル4「行政改革の推進と効率的な行財政運営」の内容1と2を入れ替えた方がよい。民間活力の活用を図ることで、行政をスリム化していくのでは。

事務局

- ・別の部会でも、内容1と2をひとつにまとめた方がよいのでは、という意見があり、本日の意見とあわせて検討したい。

部会員

- ・国の施策で老人ホームに多くの個室を作れということで進めてきたが、介護保険法の改正により、民間の老人ホームの7割が赤字経営になってしまう現象が生じている。民間活力の導入については慎重に進めてもらいたい。

部会員

- ・行政のスリム化には、公務員の削減や財源の節減について含まれているのか。

事務局

- ・公務員の削減については、中タイトル5「成果重視による市民満足度の高い行政経営の推進」の要素、行政需要等の状況に対応した、少数精鋭に職員数の管理で、財源の削減については中タイトル4の要素、効率的な財政運営の推進を盛り込んでいる。

部会員

- ・市民には、職員も痛みを伴い小さな市役所の実現を目指していること、また市税が縮小する中、財政を削減していくことを明確に示すべき。

部会員

- ・昔からの伝統を継承していく必要性を入れて欲しい。

事務局

- ・中タイトル2の「地域の個性をいかした住民自治の推進」、また教育分野の中タイトル3「ゆとりと潤いを感じる多彩な文化の創造と継承」に含んでいる。

<事務局説明>

4 その他

- (1) 市民フォーラム2 1 各作業部会における検討分野の整理と全体構成について(案)
- (2) 次回日程

以上